



こんにちは
町長です

「越谷市」との交流事業について

小鹿野町は本年5月1日に越谷市と森林整備の実施に関する協定を締結させていただきました。

越谷市は県南東部にある人口が約34万人の都市で、江戸時代は日光街道の宿場町として栄え、地形的には森林はなく、ほとんどが宅地や農地などの平坦地です。越谷レイクタウン地区内には日本最大のショッピングセンターが開業し多くのお客様で賑わっています。

本町と越谷市とは以前から交流があり、町内にあるみどりの村に越谷市の保養施設として「おがの山荘」を建設され、昭和62年7月から平成20年3月まで運営いただきました。また、平成20年4月からは町の国民宿舎両神荘を越谷市民の指定保養所としてご利用いただいております、多くの市民の方が利用されています。

その様なご縁があることから、令和3年8月に埼玉県森づくり課内に設置された「埼玉県山とまちをつなぐサポートセンター」のマッチング事業により、本協定が締結できました。

協定の目的は、本町が所有する町有林（道の駅両神温泉薬師の湯周辺約1.5ha）を「こしがや・おがの交流の森」として、越谷市と本町が協力して森林整備（植樹、下草刈り、枝打ち、間伐、除伐等の森林保全業務）を実施することにより、森林の保全及び地球温暖化対策の推進を図るとともに、森林を活用した自然体験を伴う保健・教育・文化的観光交流事業を実施し、両市町相互の交流促進を図るもの

です。

具体的な事業としては、越谷市が「こしがや・おがの交流の森」において、植樹等の体験による住民の環境学習その他の交流事業を実施するもので、本町も協力させていただきます。

また、越谷市はこの協定による森林整備活動により得られる二酸化炭素吸収量について、埼玉県から森林CO2吸収量の認証を受け、越谷市内において発生する二酸化炭素排出量と相殺（カーボンオフセット）することができることとなります。

越谷市は、これらの事業財源として森林環境譲与税を活用することとしています。

本町としては、なかなか手が入らなかった森林整備が進むことや、越谷市民の方が本町に訪れていただき、宿泊や道の駅の利用による土産品の購入、薬師の湯の入り込みなどの地域経済への波及効果も期待ができるところです。

更に、令和7年度に本町と秩父市にまたがる「秩父ミュージアムパーク」を主会場に開催される「第75回全国植樹祭」などの本町内で開催されるイベントのPRにつながります。

本協定が本町と越谷市の両者にとってお互いにプラスの効果ができるよう末永い交流を進めてまいりたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎